

平成24年度 香川県特色ある体力づくり推進学校（園）表彰調査票

記載責任者名（植田 育子）

学校（園）名	小豆島町立安田幼稚園	学校（園）長名	
		植田 育子	
学校所在地	香川県小豆郡小豆島町安田甲 491 番地 2 電話 0879-82-2018	児童生徒数	学級数
		37人	3

1 体力づくりを推進する上での学校（園）の課題

- ・ 自家用車の送迎等で徒歩での登降園の幼児が少なくなり、歩く機会が減少している。
- ・ 家庭での遊びは室内遊びが多く、戸外での遊びが少ない現状である。
- ・ 体のバランスのとれない子、姿勢が悪い子が増えている。
- ・ 食事の面では、好き嫌いが多く食べる意欲が少ない子も見られる。

2 平成24年度の体力づくりの重点目標と全体計画

(1) 重点目標

たくましい心と体をはぐくむ

— 楽しく体を動かすために —

(2) 全体計画

① 園での研究内容

- ・ 幼児が心と体を動かし、楽しく遊ぶための教師の援助や環境の工夫について考える。

② 家庭とつながって

- ・ 保育参観・保育参加が親子でふれあえる場となるよう工夫する。
- ・ PTA活動・PTA研修を見直す。
- ・ 望ましい生活習慣が身に付くようにする。

③ 地域とつながって

- ・ 裸足教育推進（布ぞうりづくり）
- ・ 食育活動（東条農業団体の方々とお米づくり、学校支援ボランティアの方と野菜づくり）
- ・ 伝統芸能継承（香川県無形文化財安田踊りの練習）

3 体力づくりの取組状況

(1) 重点的に取り組んでいる項目に○をつけてください。

項 目	○をつける
ア 戸外遊びができる時間と場（園庭環境等）を確保している	○
イ 園外保育を積極的に行っている	○

ウ 教材・教具や場を工夫したりして体育の授業を行っている	
エ 始業前や授業の間の時間等を利用して体を動かす機会を設定している	○
オ 意欲的に取り組める行事の工夫をしている	○
カ 運動部活動の運営を工夫している	
キ 家庭や地域と連携して、園児、児童生徒の体力向上に取り組んでいる	○
ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組を進めている	○

(2) (1) で○をつけた項目について取組の内容や方法を書いてください。

ア 戸外あそびができる時間と場（園庭環境等）を確保している。

- ・幼児が自ら体を動かして遊ぶことが楽しいと感じられるような教師の援助を考える。
- ・幼児の興味や関心・意欲を高め、体を動かしたくなるような環境を工夫する。
- ・固定遊具や運動遊具を使って遊べるように、年齢に応じた配慮をする。

イ 園外保育を積極的に行っている。

- ・歩くことを奨励し、散歩は週2回実施している。また、園外保育も年間計画を立て、四季折々が感じられるようにしたり、その時期しか味わえないような場所を検討したりして実施している。

エ 始業前や授業の間の時間等を利用して体を動かす機会を設定している。

- ・週課表を見直し、朝の遊びが終わると「げんきっこタイム」として全園児で、体操をしたり、運動遊びを毎日行ったりしている。
- ・体操や運動遊びの年間計画を立て、実践し見直しをしながら進めている。
- ・本園の伝統（36年目）となっている「裸マラソン」もこの時間に行う。（11月から2月実施）

オ 意欲的に取り組める行事の工夫をしている。

- ・保育参加では、保護者とともに散歩ができるようにし、親子で運動遊びができるように計画している。その中で、本園の取組が理解できるように資料をもとに説明をしている。
- ・PTA行事も保護者が中心となり、できるだけ親子でふれあう時間を多くもつようにする。

キ 家庭や地域と連携して、園児、児童生徒の体力向上に取り組んでいる。

- ・裸足教育を本年度から取り入れ、地域の方の協力・指導のもと「布ぞうり」づくりを親子で行った。
- ・東條農業団体や学校支援ボランティアの方々と、米・野菜栽培（夏野菜・さつまいも）を行い、調理して食べるまでの活動を実施し、「食」に興味関心をもち好き嫌いをしないで何でも食べられる幼児をめざしている。
- ・地域の方々で行う栽培活動は、保護者の方にも参加していただき、「食」についてのPTA研修も実施し、幼児期からの食の大切さについて啓発している。
- ・おさんぽマップ（年4回）を発行し、親子で身近な地域に出掛けることを奨励している。

ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組を進めている。

- ・19日（食育の日）から一週間「げんきっこしらべ」を実施して4年目となる。早寝、早起き、朝ご飯を食べる、朝UNCHをめぐして親子で取り組む。5歳児になると、幼児が自覚して進んでげんきっこ調べを行うようになっている。
- ・幼児が育てた野菜をつかって、親子クッキングを行ったり、小豆島町食生活改善委員の方ともクッキングを実践したり食育に取り組んでいる。
- ・健康便りを毎月発行し、望ましい生活習慣や食生活について啓発している。

4 成果と課題

○教師や環境の工夫について

- ・ 幼児たちは、教師との信頼関係ができ心が安定すると自然に体が動き出し、自分から環境にかかわるようになる。なかでも3歳児は、個人差が大きいので、個々に応じた内面の理解が大切である。また、何かになりきったり友達と同じ動きを十分に楽しんだりする中で、友達と一緒に体を動かす心地よさや楽しさを味わっていくようになるのではないかなと思う。
- ・ 教師は幼児の心の動きを捉え、幼児の気持ちに寄り添いながら遊びの場や自分自身のかかわり方を考えていくことが大切である。そうすることで、じっくりと遊び込んだり、繰り返し遊んだりして満足感を味わうことができる。また、遊びのイメージが伝わりやすいように工夫した環境や教材を取り入れることが効果的であることがわかった。
- ・ 一人一人の幼児が自ら遊びを見つけ、遊びこむ中で多様な動きが引き出され、さらに充実感や満足感を味わうことができた。そのために教師は、幼児が心を躍らせ夢中になって遊ぶ環境を幼児と共に構成していかなければならない。
- ・ げんきっこタイムや散歩を週課表に位置づけ、内容を工夫して十分に体を動かす機会をもったことで、動くことが楽しくなり、園生活に意欲的な姿が見られるようになってきた。また食欲が増進し、給食をたくさん食べるようになり、家庭でも同じような姿が見られると保護者から喜びの声が聞けた。このような姿から、望ましい生活習慣が身に付くことが、健康な体づくりにつながっていくことがわかった。
- ・ 職員間で日々の幼児の姿を話し合うことで、一人一人の発達や育ちを理解しようと努め、保育の見直しを図ってきた。これからも職員の連携を密にしながら、幼児の表面的な姿にとらわれず、楽しく体を動かして遊べるように、幼児の興味・関心を高める環境の構成や援助を更に探していきたい。

○家庭とつながって

- ・ 家庭へ親子で共通な体験ができるように情報を提供し、保育参加やPTA行事を親子で一緒に楽しめる遊びを多く取り入れていくことで、体を動かす楽しさや心地よさを味わってもらえることが出来た。ふれ合っている時の幼児たちの嬉しそうな表情から親子活動の大切さを改めて感じ、これからも親子のふれ合いの大切さについて考えたり学んだりできるような活動を工夫し、保護者への子育ての関心を深めていきたい。
- ・ 本園でも核家族や転勤家族も増えている現状から、親同士や親と地域がつながるような機会を多くもつことで少しずつ安心して子育てができるようになってきている。今後も、幼稚園が子と親が共に育つ場として、地域における幼児期の教育センター的な役割を果たしていきたい。

○地域とつながって

- ・ 地域とのかかわりを通して、様々な人のあたたかさや大切にしてくれるぬくもりを感じたり、感謝の気持ちをもったりすることができ、経験の積み重ねが心を豊かにしていると思われる。今後も地域とのつながりを大切にし、幼稚園と地域が一緒になって幼児のたくましい心と体をはぐくんでいきたい。